

採用年度	平成 30 年度
お名前	加生 和寿
派遣期間	平成 30 年 4 月 1 日 ~ 令和 2 年 3 月 31 日
領域/分科/細目	生物学／生物科学／分子生物学
派遣国	スウェーデン
受入機関名	Umea University
受入機関部局名	Department of Medical Biochemistry and Biophysics
研究概要	<p>私たちが健全な生命活動を維持するには、ミトコンドリアという細胞内小器官が細胞にエネルギーを供給することが必須です。ミトコンドリアはエネルギー産生に関わる酵素群をコードする独自のゲノム(mtDNA)を有しており、その細胞内コピー数と品質を確保しなければなりません。本研究課題では、ヒト細胞がどのようにして mtDNA のコピー数と遺伝情報を維持しているか解明することを目的としています。</p>
派遣前の準備についてのアドバイス	<p>海外留学の準備で最も多くの時間を割く必要があるのがビザの申請かと思います。私の場合、海外特別研究員としての派遣を開始する時点で既にポスドクとして雇用されていたので、派遣開始時点での受入機関との調整は問題ありませんでした。留学開始時点におきましては、スウェーデン移民局を通してビザ取得許可のウェブ申請を行いました。申請受付から実際にビザ取得許可を得ることができるまでには1ヶ月半近く要しました。申請書類は、受入機関が準備するものも含まれますので、派遣開始に間に合うように早めに計画、申請する必要があります。私の場合には妻の分も同時に申請しましたので、日本での結婚証明などの追加準備にさらに時間を取られました。派遣先での滞在場所について、私の場合には大学事務を通じてアパートの1室を確保してもらいましたので特に準備はありませんでした。</p>
派遣中に問題になりうることについてのアドバイス	<p>派遣開始後速やかに行うべきことの1つがパーソナルナンバーの取得です。スウェーデンではパーソナルナンバーは銀行口座開設など日常生活に必須のため私も速やかに申請しましたが、公的機関の事務処理にとっても時間がかかり多くの問題が生じました。まずスウェーデン移民局を通じて居住許可カードを受け取り、次に税務局にパーソナルナンバーが記入された ID カードを申請するという流れで、最終的に ID カードを取得するまでに2ヶ月以上を要しました。日本のような速やかな対応は期待できませんので注意が必要です。また、スウェーデンの人々は1日2回の Fika (コーヒーブレイク) や数週間のまとまったバケーションなど休養をしっかり取り入れているので、それ自体は素晴らしいことですが頻繁に研究や事務手続きなどに支障をきたします。周囲に流されず自分のペースで研究を進めることを常に心がける必要があります。</p>
派遣先での生活の様子	<p>Umeå は自然豊かな街で非常に治安が良く、子供連れ家庭にとってベストな環境が整っていると断言できます。住宅の家賃相場は子供連れ家族用の部屋でもそれほど高くなく、交通面ではベビーカー持ち込み可能なバスが充実しており便利です。また、子供連れに優しく接してくれる人が多く、困ったことがあると積極的に手伝ってくれます。派遣に同行している妻には海外での出産、育児と大きな負担をかけてきましたが、Umeå 在住の日本人コミュニティなどを通じて現地の友人に恵まれ、日常生活や育児についてアドバイスを頂きました。現在では、私の妻は無償の移民用スウェーデン語学校でスウェーデン語を勉強することで日常生活の手助けをしてくれています。Umeå は北極圏に近いので夏は1日中散歩や日光浴を、冬はオーロラハントやスキーなどのアクティビティを気軽に楽しむことができます。また、冬は極寒のためスポーツジムなどのインドアアクティビティや子供と一緒に楽しめる屋内施設も充実しています。</p>

海外特別研究員に
採用されて良かったこと

海外特別研究員事業の支援により、私の研究計画を不自由なく遂行できたこと、及び研究活動と育児を両立できたことを深く感謝しています。本支援により派遣前と異なる分野の研究に挑戦し、さらに日本と異なる環境で研究生活を送ることができたことにより、研究者としての視野を広げることができたと考えます。また、新たに身につけた研究技術や多分野の研究者とのネットワークは私の将来の研究遂行やキャリア形成の糧となるものと確信しています。